

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600609		
法人名	有限会社 ニフコ		
事業所名	グループホーム 田舎		
所在地	岐阜県揖斐郡池田町沓井 603		
自己評価作成日	2019年10月20日	評価結果市町村受理日	2020年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&ikgyosyoCd=2172600609-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	2019年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな田園風景に囲まれ中庭と畑のある築五十年の民家を耐震補強とスプリンクラーで安全を確保しバリアフリーにしたホームです。利用者スタッフがあまり気を張ることなく、自然体で一日一日を楽しく過ごしていけるような場でありたいと思っています。かかりつけのクリニックの往診、看護職員と介護職員の連携を密にし、医療面でのサポートを充実させ、ご利用者、ご利用者家族に安心して健康にお過ごしいただけるように努めています。日々、業務の中で気付いたことを入居者やスタッフと話し合い、やりたいことや、やれることを増やし、楽しく暮らすための改善に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

純和風で、施設内には縁側や庭、畑があり、暮らしやすい環境であると同時に、利用者と職員と一緒に食卓を囲み、会話をしながら食事をし、自然と笑顔がこぼれる家庭的な雰囲気になり溢れた施設である。この雰囲気が施設の理念であり、代表者の思いである。ここまですれば満足であるというゴールはなく、一歩一歩改善し続けることで、利用者はより楽しく暮らし、職員はより楽しく働けるように努めている。職員全員がいろいろなアイデアを提案し、利用者の残存機能を発揮させ、利用者の自立を促そうと努力している施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営推進会議や地域の方々との話し合う場を通じて、高齢者の健康、在宅での暮らし、在宅医療介護の在り方などについて共に考え、語り合う場としている。	代表者は職員に事業所の理念を伝え、全職員は利用者それぞれの個性を理解し、役割を担って頂くことで、生きがいをもち、明るく楽しく暮らせるように支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じ福祉委員、民生委員と介護全般、高齢化問題や防災の問題について話し合っている。地域の理髪店を選び、送迎や訪問理容で理髪している	地域の人を職員として採用したり、地域の方が運営推進会議の資料を取りに来る方もいるが、地域の高齢化に伴い、親しい近所づきあいが薄れつつある。地域の行事には参加できていない。	地域行事への参加、事業所の強味や専門性を活かした情報発信など、地域との関わりを持つことを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	児童養護施設児童のインターンシップを受け入れ介護について仕事としての介護について話し合っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、地区の福祉委員、民生委員などと高齢者の健康、認知症問題、防災について話し合い、各々の意識やサービスの向上を図っている。	事業所の状況報告を行い、今起きている身近な問題に触れ、地域や事業所の課題に置き換え問題提起をしている。会議で話し合われた内容を伝え、職員間で意見交換する場を設けてサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	職員が認定審査会や池田町ケア会議、ケアマネ連絡会に参加し、役場や保険者と日常的に交流し、入居者やスタッフの状況について報告相談し、様々な助言を得てサービスの向上を図っている	介護認定審査会委員を務めるなど揖斐広域連合との関係性は良好である。料金不払いの相談を行うなど気軽に相談できたり、介護保険の加算の提案などのアドバイスを受けることができています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について日常的にスタッフと個々のケースに具体的、現実的に話し合い、身体拘束禁止の意識と人権意識を高めている。緊急性と代替性を強く意識するよう努めている	全職員は、利用者の行動を抑えるのではなく、発想を転換し代わりの方法を考える話し合いをしている。時に代表者が適切でないケアを注意することもある。全職員で身体拘束をしないケアの意識を高め、利用者の人権と安全を守るようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	難しい法律論ではなく、具体的に「どのような意識や行為か？」など日常的な話合いの中で理解を深め人権侵害や虐待の防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、事務長は権利擁護について、積極的に外部識者や社会福祉士と話し合い学ぶ機会を持つよう努めている。持ち帰って日常にかみ砕いて職員に伝えるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、できるだけ多くの家族や関係者に対して十分に説明し、入居に際しての理解と納得を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	携帯メールなどを利用し、利用者や家族が管理者と気軽に本音で話せるような関係作りに努めている。ターミナル期について相談されることが増えたので丁寧に繰り返し説明している	SNS(メール)を活用し、家族への相談事等を発信し、家族の意見を聞いている。重要な事項で返信がない場合は電話をかけて家族の意向を確認している。その意見や意向を職員に周知している。家族には内容を報告し理解を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事務長や管理者は業務改善についてスタッフの意見を早急に出来るだけ対応し、スタッフの現場意識、改善意欲や達成感を得られるように努めている。	代表者は業務改善を行い、職員の介護量を軽減し、利用者と接する時間を少しでも多く持って楽しく働ける環境を整えている。職員は直接代表者に意見を伝えることもできる良好な関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や事務長は勤務状況や能力の向上を積極的に評価し、合理的で働きやすくやりがいいのある職場環境をつくるために努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で行われる講習会を紹介し、参加を呼びかけている。講習会の参加費用の一部または全額を助成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村や地域の福祉事業者の勉強会、地域のケアマネ連絡会に参加し、意識とスキルの向上を目指して情報交換をしている。得た情報をスタッフに伝えスキルアップを目指している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族より在宅時の生活状況や趣味、嗜好を聞き取りするなどして本人が安心して暮らしていける環境作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族親族の間に必要に応じて適度に介入し、本人と家族を一体的に支えることを目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	急激な生活環境の変化を緩和するため、デイユースやショートステイの利用など個別に臨機応変に柔軟に対応、できるだけ抵抗や不安感の少ないサービス導入を目指している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が有している生活力を尊重した施設を目指す。現実的には認知力やADLの低下とリスクから厳しい部分もある。引き続き 利用者の生活力を見い出すよう努めていきたい		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の理解を得ながら、短期間家族宅で暮らすなどすることを提案し家族との関係の維持に努めている。家族の仕事都合を考え、面会時間の自由度を高めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望、家族の要望や理解に応じて、短期間家庭に戻るなどを提案。家族との関係の維持に努めている。地域の行事や馴染みの方々との面会を提案している。	職員は、利用者の希望や要望を聞き、家族にSNSで連絡をしたり、時に自宅に出向いて家族の関係が途切れないようにしている。馴染みの方が来られた時は再訪の声かけを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を注意深く観察し、お互いが生活の質を高めあえるような関係を築けるよう見守り支援している。利用者間の軽いいざこざも社会的な刺激と考え見守ることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入居された方を訪問したり家族との連絡を適度にとっている。スタッフと話し合い自施設の在り方について前向きに話し合う材料としている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にとって できるだけ居心地のよい場所、健康に安心して暮らす場でありたいと考え、その実現に努めている。本人が目標を得られるよう支援している。	利用者との関わりを多く持ち、日頃の会話の中から思いを聞き取っている。うまく伝えれない利用者には、思いをくみ取り、職員が選択肢を挙げて自分で決めてもらうようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や嗜好を家族からの聞き取りなどや日々の観察で把握し、暮らしやすい環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察、記録しスタッフ間で相談しながら生活力、ADLや生活力の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者やスタッフで話し合いながら介護計画を作成している。また現場のケアの中でも活発に意見交換し見直しに反映している。	家族にはSNSで聞き取り、利用者とは会話から意向を確認している。介護職員がモニタリングやアセスメントを実施している。意見や提案を介護計画書に盛り込み、原案を作成して家族に説明、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況健康状態を観察記録し、管理者スタッフ間で相談協議し、日々の介護に実践しケアのレベルアップに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出レク、緊急時の病院送迎など、利用者や家族の状況、状況に応じて臨機応変に柔軟、迅速に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理髪店の出張による整髪や園芸ボランティア、散歩の同伴など軽度の身体レクをお手伝い頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	症状に応じて本人、家族の希望する医療機関で受診している。施設かかりつけ医に定期的な受診をお願いし、利用者の状況を把握。日常的に見守って頂いている	かかりつけ医は本人や家族が自由に選ぶことができる。施設の協力医を希望する方も多いが、専門医の受診が必要な時は看護師が書面を作成し連携を図っている。メディカルソーシャルワーカーとの連携もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し常時連絡を取りながら利用者の日々の健康的な生活を見守っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の疾患、生活状況について詳細に報告している。退院が近づく病院関係者と連絡を密にし、家族、かかりつけ医とも相談の上、早期の受け入れに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重篤となった場合や様々な予後の状態を想定して対応出来る事と、家族側が必要な事柄について、それぞれ具体的に説明相談している。運営推進会議において頻回に終末期の話題を取り上げている	契約時に看取りに対する意向を確認し、主治医が終末期と判断した時には、再度家族の意向を確認している。終末期後期には代表者や管理者が泊まり込む対応をし職員の不安の軽減を図ったり、看取りを通じて人の死に対する教育も併せて行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務長は救急救命講習を受講済み、看護師(管理者)と共に日常的に様々な場面で救急救命法や急変時の対応について説明しスタッフ全体のスキルアップに努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難方法や非常時備品について、日常的に考え、定期的に避難訓練を行っている。運営推進会議などを通じて協力体制の構築を目指している。トリアージに関して話し合っている	水や食料などの備蓄品に加え、発電機や薬の準備を行っている。被災時には地域に協力できるように準備している。夜間想定などの避難訓練を行っているが、地域と具体的な協力体制の話し合いまでには至っていない。	地域との関わりの一環として、災害や被災時の協力体制の話し合いを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の職歴、生活史と人格を尊重し対応をするよう努めている	トイレ介助は他の利用者に聞こえないように声がけし、トイレの入り口には手作りのカーテンを取り付けている。利用者の心を傷つけない配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者自身の思いを聞きだす為に努力している。思いを上手く表現できない場合は適切な選択的な質問を行い 自己決定を促す努力をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定を尊重し日々様々な暮らし方を利用者それぞれが実現できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	安全と清潔と健康に配慮し、適切な身だしなみができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	芋の茎の皮むき、筋取りなど下ごしらえなどお願いしている、台拭きやエプロン畳みなどできることをできそうな人をお願いしている。	自作のサイドテーブルが設置され、自力で食べられる工夫をしている。食事前には口腔体操を兼ねて懐かしい歌を歌い、楽しい気分のままで食事時間が始まり、職員と一緒に食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー、摂食量とろみのレベルを個別に管理、必要に応じて個別に水分のインアウトや分割食など行い栄養と水分の摂取を管理している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。毎晩入れ歯の洗浄を個人の状況に応じて指示、見守り、全介助で行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンと能力、状況に応じて適切な排泄介助を行っている。固定的に独断的に考えず様々な変化に応じて柔軟に見直すよう努めている	排泄シートでパターンを把握し、声かけをして適切な時間にトイレ誘導を行っている。自作の手摺は四角の格子状にしてあり、利用者に合った場所を掴むことができるように工夫がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤に出来るだけ頼らない自然な排便を目指している。食物繊維の多い食材の積極的な摂取。適度な運動。座位保持を行ったり漢方系のお茶などを服用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	庭に柚子が沢山なるので冷凍保存し、通年で入浴時使っている。ゆっくり温まりたいなどの希望をできるだけ聞き入れて入浴していただいている。	庭で採れた柚子や入浴剤を入れている。湯温や入浴時間など利用者の希望を聞き対応している。気の進まない方には着替えだけと誘うと入浴することができる時もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人と同居者の安全で健康的な生活を優先し、それぞれの希望や生活習慣を配慮した就眠環境作りに努めている。それぞれによって消灯時間は異なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者カルテに薬剤の説明書をファイルして薬剤の詳細について情報を共有している。降圧剤など取扱に注意を要するものはことあるごとにスタッフに事故例を上げ何度も説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者それぞれの生活歴や趣味嗜好を家族との話しや日々の生活の中から見つけ出し生活に彩りをあたえる支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭や畑。施設周辺の自然豊かな道を散歩している桜の季節はすぐそばの堤防の花見を楽しんでいる。気分転換に努め体力気力の維持向上に努めている	日常的に外出することは難しいが、気候のいい時期には散歩に出かけている。施設内には縁側があり、そこで日向ぼっこをしたり雨音を聴いたりする。庭に出て、外の空気に触れ、花や木を観たり触ったり嗅いだりして季節を感じて過ごしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を使うことはなかなか無いが、チラシを見ながら野菜の値段を話すなどして金銭感覚の保持に努めている。可能であれば外出時に金銭を使用するサポートをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の挨拶状や年賀状を書くことを支援している(表書きはスタッフ)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの生活環境である在来木造田舎造りの家屋を、スプリンクラーや地震等の防災、バリアフリーの改装を行い、また利用者の状況や必要に応じて随時、造作改修を行い安全の維持と健康な生活環境の実現に努めている	利用者から「食卓の足元が寒い」との訴えがあり、手作りのコタツで暖かくして食事を摂れるようになった。食堂は食事前から料理の匂いが漂っている。犬は利用者のアイドルで事業所の雰囲気のを和ませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日本家屋は比較的死角の多く、利用者はそれぞれ『お気に入り』の場を見つけることができやすい。スタッフはそれぞれの居場所を尊重したさりげない介護に努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全と安静が確保できる前提で本人が慣れ親しんだ物品を持ち込み 安らかに気持ちよく暮らせる様にと考えている	居室には使い慣れたものの持ち込みは自由であり、家族の写真などが飾ってある。臭いがこもらない様に常に空気の入替えがされている。部屋の仕切りは障子や格子戸であり落ち着ける配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所、トイレへの経路などを入居者の視点を考え見やすく表示している。体格や状態に応じて支えることのできる手すりを設置している。		